

特別対談



元マラソン選手・第7回ちくせい
マラソン大会ゲストランナー

谷口 浩美

筑西市長

吉澤 範夫

今年で7回目を迎える『ちくせいマラソン大会』。今年は市外、県外などからたくさんの方の参加を受け入れるべく10キロの部門も新設。またゲストランナーには世界陸上選手権で日本人初のマラソン金メダリスト谷口浩美さんを迎え、マラソン大会を開催します。

吉澤市長——本日はお会いでき大変光栄です。私は谷口さんには、ご縁を感じています。私は平成3年に旧明野町の議員になりました、平成4年のバルセロナオリンピック後に出版された本『雑草のごとく——転んでも踏まれても立ち上がれ!』の中に、いいたことがあって、「夢無きもの理想なし、理想無きもの目標なし、目標なきもの実行なし、実行なきもの成果なし、成果なき者喜びなし」。わたしはこの本を読んで「夢」という言葉をキーワードに、市長になって2年目ですが市政にも取り組んでいます。

谷口さん——今回の対談が決まっていたから読んでいただいたのかと思います。出版当時に読んでいただけただけのこと、嬉しく思います。

吉澤市長——今年、国道50号下館バイパスが一部開通、またゲストランナーに谷口さんをお迎えし、10キロマラソンを新たに設けました。谷口さんはすでにコースを拝見いただいたということですが。

谷口さん——はい。今年、大会実行委員長などから、大会

が大きなこととお聞きしました。場所も平坦で田んぼが続くよい環境であり、折り返しもあり、走る人もそうです。応援する人も良いコースですね。市長さんも一緒に参加してみたい。

吉澤市長——私も4年前に一度親子マラソンに参加したことがあります。1・2年生と一緒に手を離さないというのがルールで、あのころはまだ大丈夫でしたが、10キロになるとたくさん練習しないと厳しいですね。

去年の大会までは道路上がスタートでしたので、小さいお子さんなどは転んで何人かケガをしています。今年はグランドからのスタートを予定しているということですが。

谷口さん——そうですね。スタートの時に交錯したり安全性を考えると重要ですね。グランドからどのようにですか?という話をさせていたでいて、大きく回ることによる、隊列はピラミッド型に集約されますので、その後道路にでたほうがいいですね。

吉澤市長——最後のゴールはどうなんですか?今までは

はゴール100メートル前に整列させ、安全面も考えゴールさせていた。中学生ぐらいになると、最後の力を振り絞ってゴールというのがあります。

これまで抜けなかったという話を聞いたことがありませんから。やはり競争なので、最後まであきらめないという気持ちも大切ですからね。

谷口さん——昨までは人の目で順位判断していたということで、実行委員さんが協議し、今年からはタグ(コンピューターチップ)を導入するということですので、胸の差まで勝ち負けが測れますので、思う存分競争していただくことができます。



谷口さん・吉澤市長と握手する大会実行委員長鈴木喜雄

吉澤市長——現在全国的にマ

ラソンがブームになってきており、東京マラソンなどは抽選で一日でいっぱいになってしまふ。ちくせいマラソンも軽井沢マラソンのようにせめてハーフぐらいは開催できるようにしたいですね。市外県外からも多くの方が来ますし、今回は谷口さんの講演もあるので、大会をたくさんピーアールしていただいて。

谷口さん——ハーフ、フルマラソンにしても、現在のマラソンブームの礎は健康ブームや時間制限が広がったということもある。単純計算時速10キロで歩けば完走ができる、東京マラソンは走りながら仮装したり、カメラを持って遊びながら観光もできる。楽しみながらということも続けるのには重要です。

吉澤市長——マラソンは自分との戦いなどと言われることがあります。谷口さんにとってマラソンの秘訣はやはり忍耐、精神力でしょうか。

谷口さん——僕自身も忍耐、精神力があるほうでないのでも目標であったり、夢であったりと思う。それが強ければ強いほど、達成しようという欲が湧いてくる。私はオリンピックに2度出場していますが、オリンピックに行きたいと思ったのは25歳の時です。年齢を積み重ねていくと、何が大事かということ、やはり出会いだと思ふ。どんな人と出会うかによって目標が変わり、それをやり遂げるかは積み重ねですかね。

吉澤市長——谷口さんは現役時代とあまり変わっていませんが、現在も走られているのでしょうか。

谷口さん——申し訳ありませんが今は、まったく走っていません。私はバルセロナオリンピックの翌年、痛風になりました。現在も痛風とお付き合いしています。(ビールは飲んでいますが…)

での大会の中で一番思い出に残っている大会はやはり靴が脱げてしまっても入賞したバルセロナオリンピックですか。

谷口さん——靴が脱げてしまったことは、私の思い出ではなくて、みなさんの思い出になればいいのかなと思います。20年が過ぎたにもかかわらず、イメージを持っていただいている。いわば、話のきっかけになりますので。

一番は世界陸上ですかね。2月に東京国際マラソンで失敗し、9位になってしまった。これで世界陸上は無くなったなと思ったが、運良く出場することができました。

私は出場するすべての大会で、大会の3日前から大会でゴールし、その次の日までの台本を書いています。世界陸上では失敗しないために、これまですべてのレースを振り返り、データ化して臨みます。

しかしスタートしたら、台本を書き換えなければいけません。台本どおりに行ったら全部の大会で優勝してしまいますから。レースしながら台本を書き換えることも必要に

谷口 浩美 たにぐちひろみ
1960年4月5日生まれ、宮崎県南郷町(現日南市)出身
日本体育大学卒業。1991年世界陸上競技選手権大会男子マラソンでは、日本人として初の金メダルを獲得、オリンピックに2度出場など輝かしい成績を残す。

谷口浩美さん講演会 開催のお知らせ

- ▶日時= 10月20日(木) 午後6時30分~
- ▶場所= 下館総合体育館 ▶参加費= 無料 ※上履き持参
- ▶内容= 目標に向かって努力することの尊さ・厳しさ、トレーニング方法など(動きながら、実戦を交えて)

問 スポーツ振興課 ☎28-5040

ちくせいマラソン大会 参加者募集

- ▶開催日= 12月11日(日)
(開会式) 午前9時・(スタート) 午前9時30分
- ▶場 所= 下館総合体育館北側道路及び
国道50号下館バイパス
- ▶参加料= 小・中学生 200円(市外は500円)、親子
500円、高校生 1,000円、一般 2,000円
- ▶申込方法= インターネット、携帯サイト、専用振替払込
用紙にて申し込み ▶申込締切= **11月4日(金) 必着**

問 申 スポーツ振興課 ☎28-5040

なってくる。そして上手く書き換えられたのが世界陸上でした。優勝は台本通りですけどね。今振り返って見ても、ゴールしてからのインタビューもすべて台本通りでした。

吉澤市長——いまでこそイメージトレーニングは主流になってきていますが、その前からイメージトレーニングをしてレースに臨んでいたわけですね。

谷口さん——高校時代の指導者が、そういう精神的な部分も大事であるということも教えてくれました。

しかし最初は、上手くできませんでしたが、練習や大会に出場し、積み重ねていくうちに思うようにできるようなったのも僕にとっては、面白いことでした。

この出会いがあったからこそ、現在の自分があるのかもしれませんね。

吉澤市長——夢の実現のためには、目標、そして積み重ねが重要であることを学びました。本日はありがとうございました。